

---

# アーヴィング

ごはんライス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
アーヴィング

【Nコード】  
N4487S

【作者名】  
ごはんライス

【あらすじ】  
エンディングがよくわからないな。落ちなしだ……。

アーヴィングが大学を出た時、後ろから知らないおっさんに声をかけられた。

「アーヴィング。久しぶりだな」

「え。誰、おっさん」

おっさんは当惑してる。アーヴィングは急ぎの用事があったので、歩き始めた。

アーヴィングには悪い癖がある。歩きながら、鼻くそをほじって食べる癖だ。

これはやめた方がいいと作者は思う。汚い。

さっきのおっさんは居酒屋に行った。

「大将。日本酒、熱燗ね」

「あいよ！」

「くそうアーヴィングのやつ無視しやがって。やけ酒だ」

居酒屋の大将、ムービング・モーヴィングには、娘が二人いた。

そのうちの一人、ジャイアンは、中学二年生であり、中学でバスケットをしていた。

作者、バスケットがあまり好きではない。どちらかというとバレーの方が好き。

では、みなさん。あなたは、バレーとバスケット、どっちが好きですか。

投票したいなあ。興味のあるところだが、まず話を進めよう。怒られる。アーヴィングは、彼女のマクドナルドのアパートに着いて、部屋で映画雑誌を眺めてた。

「アーヴィング。何の映画観る？」

「そうだねえ。うつむ」

「ねえアーヴィング。ねえアーヴィング」

「うるさい！」

アーヴィングとマクドナルドは腕を組んで、映画館へ向かった。途中、大学の後輩、モーターにあった。モーターは、黒人で身長が二メートル近くある。

「モーター。お前、やくざとつき合ってるらしいじゃないか。大丈夫なのか」

「それを言わないでよ。アーヴィング」

アーヴィングは、モーターの腹を殴った。

「やくざとはつき合うな！」

「うわあああん。うわあああん」

マクドナルドが背伸びをして、よしよしとモーターの頭をなでる。

「ちよつとアーヴィング。いくら何でもひどいよ」

「うるさい！」

その頃、居酒屋でおっさんが、酔っぱらって、踊っていた。両手を上げて、腹を振っている。「ほい。ほい。よっ。ほい！」「いいぞーおっさん」「サイコー」

その居酒屋の奥の座敷で、マーケティングとモーツアルトが、鍋をつつきながら酒を酌み交わしていた。

「モーツアルト。お前、あれどうすんだよ。例のやつ」

「どうしようかねえ。あれねえ」

例のやつは実に二億円の利益が見込める。

無論、リスクも大きいわけである。だから、悩む。

ちなみに、モーツアルトの母親は、売れないダンサーをしている。ミーティングという名前で、ミーティングダンスというのを開発した。

なかなか面白いダンスなので、みなさん、一度観に行ってください。

さて、アーヴィングは、何をしてる。吉島さん。吉島さん。

「はい。吉島です。現場ですごいことになってます。まずは映像をもらってください」

アーヴィングがマクドナルドをぼこぼこにしてる残酷な映像が流

れる。

「はいストップ。もうやめて！　これはいかん！」

映像はストップされた。CM入ります。

もっじやもじや饅頭。もっじやもじや饅頭。上から下までもじやもじや、もじや饅頭。

今なら大サービス、150円！　みんなでもじやろう！

テレビのチャンネルを変える松下。「お。これ面白そうだから見よう」

メソッドが、逆立ちして、町を歩いている。

「よう。メソッド。陽気な逆立ちだね」

「えへへへ。逆立ちもラクじゃねえすや」

「違いねえ」

そんなメソッドに向かって、トラックが。

「はいストップ！　だめ。残酷。却下」

いったん、CM入ります。

もっじやもじや饅頭。もっじやもじや饅頭。上から下までもじやもじや、もじや饅頭。

今なら大サービス、おまけのモジャマンもついて、150円。みんな、レッツもじやりんぐ！

松下が「もじや饅頭買おうかなあ」と思う。

松下は、テレビを切って、ジャンパーを着て、外に出た。歩いている途中、前を見て、あっと思う。

男性が女性をおぶって歩いている。どこかで見たやつら。

「アーヴィングとマクドナルドだ」

「ごめんね。マクドナルド」

「ううん。こっちこそごめん、アーヴィング」

松下はサインをもらいたかったが、バイトに遅刻すると思ってあきらめた。

松下はちよっとお腹がすいたなと思い、コンビニに入った。

「お。ラッキー」

カウンターを見ると、大好きなモンバーリンボーちゃんがいる。

「モンバーちゃん、相変わらず、かわいいなあ」

ふと棚を見ると、もじゃ饅頭が置いてある。「本当にもじゃもじゃだ。気持ち悪いな」

松下は、ふと前を見ると、同級生のマッケンジーが、エロチックな雑誌を手にとり悩んでいた。まさか買うつもりか。買うつもりなのか。

松下はドキドキしながら眺めていた。マッケンジーは、エロチックな雑誌を棚に戻し、再び、別のエロチックな雑誌を手にとって悩んでいた。

松下はハラハラする。やはり買うのだろうか。それとも買わないのだろうか。いったいどっちなのだ。どっちなのだ。

松下は、よしオレも、と思い、マッケンジーの隣へ行った。

「ま、松下」

「やあ。マッケンジー」

しかし、松下もエロチックな雑誌を手に取り悩んでしまう。だってカウンターには……。

エロチックな雑誌の気持ちはどんな感じであろうか。

「さつさと決めてよ！ このちんかす野郎ども！」

とエロチックな雑誌は思っているのかもしれない。思っていないのかもしれない。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4487s/>

---

アーヴィング

2011年4月13日21時25分発行